

夕カノ 通信

Vol. 10
2000/09
証券コード 7885

第48期 中間事業報告書
平成12年4月1日▶平成12年9月30日



Takano
夕カノ株式会社



TOP interview

多角化している各事業の現状と今後の展望についてお聞きします。

ばねからはじまりオフィス家具、エクステリア、エレクトロニクス関連、健康福祉関連と事業の多角化を展開しているタカノですが、今回は、各事業ごとの現状と今後の事業の展望につき、鷹野社長よりお話をいただきました。

オフィス家具部門

現在の状況

需要面でいいますと、現在、オフィス家具需要の下落に底打ち感が出ており、現状から今後にかけて上昇に転じるのではないかと考えられます。

この上期は今後に向けての設備投資やラインの改善等を行っており、この部門は若干効率を落としておりますが、本下半期は、投資や効率化の効果が出てくるとともに、オフィス家具需要の好転から受注が増えてくると思っております。また、現在客先在庫も少なく推移しており、今下半期は大変期待できるものと考えております。

また、本年10月にドイツのケルンで2年に1度開催されているオフィス家具の世界最大規模の展示会「オルガテック」に当社が初めてオフィス椅子「AGATA」を出展しました。この椅子は展示会では大変な好評を頂き、当

社の椅子も世界でトップクラスの椅子と並ぶものとなってきたという実感を持ちました。

今後の展望

2002年頃から首都圏を中心とした大規模なオフィスビルの建設計画が予定されております。この計画はバブル期に行われた建設規模以上のものとなるとされております。それに伴い、今後のオフィス家具需要も見通しは明るいものと考えております。

事業の展開方向としては、環境対応商品開発を引き続き重要なテーマとしてとらえており、さらに、新素材についても研究開発を重ね、次世代を担う商品開発につなげてまいります。また、今後もますます発展する情報通信技術をとらえ、IT対応の椅子の開発も進めてまいります。

そして、情報通信技術やシミュレーション技術を積極的に活用することに



オフィス椅子「AGATA」

より、質の高い商品の提供、生産性の向上や開発効率の向上を図り、体質を強化していこうと考えております。

エクステリア部門

現在の状況

事業の環境面は住宅着工件数の減

少傾向もあり、厳しいものとなっておりますが、今上期の売上高は前年同期と比較して若干伸ばすことができました。

また、生産ラインの効率化をねらった小グループによる生産管理システムである「ショップ制」を導入し、現在、収益体質の改善に効果を上げております。

今後の展望

今後の展望としましては、引き続き住宅着工件数の減少傾向も予想されますが、国内においては「外部空間の活用・外部空間の快適な過ごし方」といった面での市場はこれから本格化していき、今後大変期待されるものと考えております。そこで、この外部空間の活用を考えた商品の提案を進めて、タカノが「外部空間・生活の提案者」となるべく、事業を進めてまいります。

そして、開発の方向としては、タカノとしての強みを生かせ、付加価値の高い「メカや電装などを利用した『動きのある商品』」に力を入れていきたいと考えております。また、リサイクル材を利用した商品の開発も今後活発化させてまいります。

エレクトロニクス関連部門

現在の状況

現在、パソコン・テレビ・携帯電話・携帯情報端末などの情報表示装置としてFPD（フラットパネルディスプレイ）の需要が急増しております。この需要を受け、液晶・PDP（プラズマディスプレイパネル）メーカーにおいても生産能力増強のための投資が活発であります。

液晶・PDPメーカーの活発な設備需

要のなか、エレクトロニクス関連の画像処理検査装置については、前期比で倍の受注を頂いており、下半期の受注も順調であります。

この受注をこなすべく、エントリー制による当社独自の新しいアウトソーシングスタイルである「ネットワーク企業群」を編成することによって生産能力の増強を図っております。

また、産業機器分野の電磁アクチュエータにおいても新五百円硬貨・二千円札対応のATM（金銭預入支払機）向け需要が活発化し、受注環境は好調であります。

今後の展望

今後の展望としましては、情報通信の進展に伴い、パソコンや携帯電話などで利用される半導体やFPDの需要は今後もさらに拡大していくと思われれます。また、携帯電話や携帯情報端末の小型化はさらに進み、その生産プロセスで利用される検査装置の需要も同様に拡大されていくことが見込まれています。この需要環境をとらえ、この分野にさらに注力することによって成長を図ってまいります。

また、産業機器分野の電磁アクチュエータは、今後コンビニエンスストア等に大規模に設置されることが見込まれるATM向け需要に対応すべく、開発力・コスト競争力強化をさらに図ってまいります。

健康福祉部門

現在の状況

高齢者や障害者の移乗・移動二

ズに応える新商品「タカノ・パートントランスファーシステム」を本年6月発売いたしました。この発売にともない、従来の販売方法と異なる、タカノ独自の販売モデルの模索を続けてまいりましたが、今上期に一定の方向が定まり、「タカノ・パートントランスファーシステム」のPR活動を開始いたしました。

また、お客様への商品案内および資料請求、要望の吸収を目的にウェブページ（<http://www.takano-hw.com>）とカスタマーセンターを立ち上げました。

下期はPR活動をさらに展開していくとともに、お客様の要望の吸収を行い拡販に向けての足場がためを進めていく予定であります。

今後の展望

今後ますます進展していく高齢化のなかで、高齢者の移動・移乗ニーズは大きくなり、市場規模も拡大していくことが予想され、この事業部門に対しては大変期待をしております。

しかし、この分野は今後も競争がさらに激しくなることも予想されます。そのため当社では、従来にない当社独自の新しい仕組みの構築や、お客様の真の要望をとらえた商品開発力の強化を図るなど競争力強化のための手を打ち、さらに力を注いでまいります。

そして、長期的には当社を支える事業の一つの柱とするべく、この健康福祉事業を育成していこうと考えております。

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。当社の第48期上半期の概況ならびに下半期の見通しについて、次のとおりご報告させていただきます。

1 当中間期の概況

当中間期におけるわが国の経済は、長い景気の停滞期を経て一部IT関連産業の設備投資には力強いものがあり、企業収益の見通しには若干の明るさがみられるといわれ始めましたが、業種による温度差は大きく、市場には依然としてデフレ圧力が強く漂い、デパートや大型小売店等の個人消費売り上げは減少し続けております。さらに、脆弱な金融システムと生保の信用失墜といった問題を抱え、不透明な経済は依然として継続し好転の兆候はみられません。

当社の事業は、オフィス家具・エクステリア・エレクトロニクス関連・ユニット製品(ばね)・健康福祉の事業分野を展開しておりますが、大旨今日の経済情勢と歩を同じくして、IT関連は好調なもの、その他の既存事業は前期並の状況にあります。

当社の、主力事業であるオフィス家具は、バブル崩壊後企業の設備投資抑制やストライクにより、年々市場規模が縮小の道をたどってまいりましたが、外資系企業やIT関連企業の新たなオフィス需要、企業再編によるオフィスの統合・移転に伴う需要などの背景により、堅調に推移する状況が見えてまいりました。

当事業の主たる取り組みとしては、部門が一丸となって「1/2運動」を推進し、コスト・納期・経費・スペース等の改善活動と業界NO.1を目指した商品開発を進め、体力強化のための効率化とシェアアップを重点的に図ってまいりました。

エクステリア事業に関しましては、住宅着

工件数が引き続き減少しております。特に1戸建て住宅の減少が顕著で、市場競争は激化しており、販売価格の下落傾向が続いております。

これらの課題対応のために生産ラインの効率化を狙い、小グループによる生産管理システム「ショップ制」の導入を進めてきましたが、この効果によって当期の収益改善に成果を得ることができました。

エレクトロニクス関連事業の現況は、テレビやパソコンはもとより、カーナビや携帯電話などの情報表示装置として、液晶のディスプレイの需要が急増しています。今後インターネット時代の本格的到来で、デジタルTV放送や次世代携帯電話サービスの開始を控え、IT機器業界は増産ラインの構築を図っております。当事業の主力製品である液晶(LCD)やプラズマ(PDP)のディスプレイ検査装置は、前期比で倍の受注を頂いており、活発な需要状況となっております。

この旺盛な需要への対策として、エントリー制による当社独特のアウトソーシング方式「ネットワーク企業群」を編成し、この度スタートいたしました。

一方、受注増に伴い、部材のコストダウンや同機種生産による設計・組立・調整等の効率化が一段と進み、収益の向上に大きく貢献する事ができました。

エレクトロニクス関連事業の産業機器製品の電磁アクチュエータにつきましては、業界の主流が海外生産に移るなかで、当社は高品質・低コストをモットーに、内製化で対応してまいりました。その結果、信頼性が要求される新五百円硬貨対応型のATMを始め、金融機器の受注が活発となり、好調な受注を頂いております。

ユニット(ばね)・健康福祉事業に関しては、従来のばね事業が縮小していくなかで、ユニット製品への転換を図ること、福祉事業のメイン商品生産のために、健康福祉事業との合体を図り、主力の福祉機器について生産を開始いたしました。

福祉事業は、新製品である患者の移動

に使用される「ストレッチャー」の販売に注力し、キャンペーンによる全国PRと一般紙・業界紙等を活用した広告活動を積極的に展開し、販売強化を進めております。

2 通期の見通し

オフィス家具の今後の需要動向については、企業のIT機器導入に伴う需要の拡大は確実に進むものと予測しています。さらに、企業収益の回復や2003年頃までに首都圏で予定されている大型オフィス供給計画などによって、需要の促進が期待されます。

エクステリア事業に関しましては、引き続き市場の低迷による販売不振と、価格競争による値引きによって、収益の低下はやむを得ない状況にあるものと予想しております。

エレクトロニクス関連事業の画像処理検査装置は、市場の拡大に伴い、通期確定受注は前期比で倍となっております。さらに、次年度の引き合いもすでに活発であり、引き続き好調な受注で推移いたします。産業機器に関しても金融機器の好調な見通しとユニット部品の受注を目指すことにより、付加価値の増加に努めてまいります。

ユニット(ばね)・健康福祉事業につきましては、新製品のストレッチャーの輸出が順調に開始されております。一方、国内においても広告宣伝の効果と販売網の構築によって、今後の受注が期待されます。

これらの状況を踏まえ、通期の業績見通しといたしましては、

売上高	19,500百万円 (前期比9.8%増)
経常利益	1,950百万円 (前期比35.3%増)
当期純利益	970百万円 (前期比19.4%増)

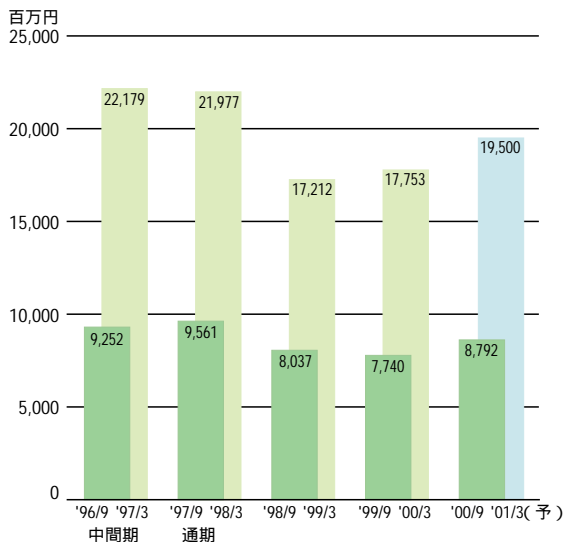
を見込んでおります。

平成12年12月

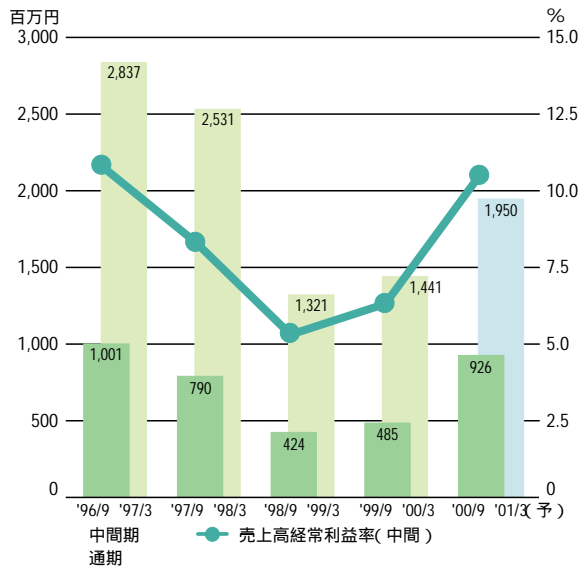
代表取締役社長

鷹野 準

売上高

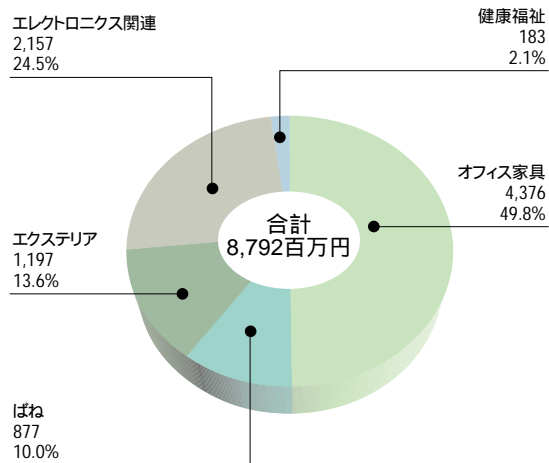


経常利益 / 売上高経常利益率

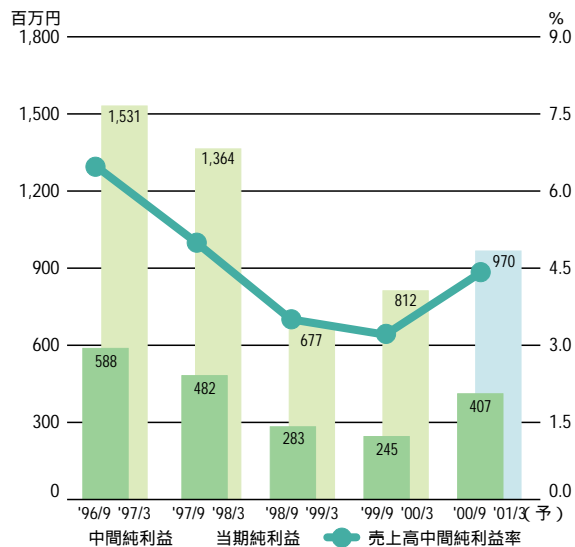


部門別売上高構成比 (第48期中間)

(単位:百万円、百万円未満切捨・比率%)



中間 当期 純利益 / 売上高中間 当期 純利益率



第27回 国際福祉機器展へ出展

Takano Close Up



本年9月12日から14日にかけて東京ビッグサイトで約13万人を集めて行われた日本最大の福祉機器展「第27回国際福祉機器展」に当社は出展いたしました。

車椅子をはじめ、車椅子用クッション、立ち上がり補助椅子、その他グッズの他、本年販売を開始した「タカノ・パートトランスファーシステム(介護者・被介護者の負担を軽減する移動・移乗器具)」の展示及びデモンストレーションを行いました。当社ブースへの来場者も昨年よりさらに増え、大変好評の内に展示会を終えることができました。

特に、「タカノ・パートトランスファーシステム」のデモンストレーションについては多数の方にご試用していただき、本製品に関する様々な評価を頂くことができました。このご意見を今後の開発にスピーディーに活かすことによって次代を担う商品づくりに役立ててまいります。



また、本展示会より健康・福祉関連商品のロゴマークを「TAKANO Heart Works - 心を形にできるテクノロジー、あります。」と新たに定めました。これにより、当社製品のブランドイメージ向上と同時に、お客様の心の中にある「やさしさ」をカタチにできるような商品・サービスの提供を通じて、健康福祉関連事業のさらなる成長を目指してまいります。

新たなソリューションを生む 工業用紫外線レーザーシステムを発表

Takano Close Up



UVS-4100

タカノは「紫外線レーザー加工システム」を本年6月7日～9日、東京ビッグサイトで開催された「JPCAショー（主催：社団法人日本プリント回路工業会）」にて発表いたしました。

「紫外線レーザー加工システム」の特徴は従来の工業用レーザー波と比較して、波長が短い266nm（ナノメートル：1mmの100万分の1）紫外線工業用レーザーであるということです。この短い波長による光化学作用により、従来のドリルや炭酸ガスレーザーと比較して熱影響を最大限抑えた超微細加工が可能となっております。

用途としては、今後ますます小型化・軽量化が求められる携帯電話などの情報端末に使われる高密度ビルドアップ基板の穴あけ加工や半導体各種プロセス用途、有機系材料の微細加工等があります。

本製品を発表した展示会においては、素材メーカーの皆様を中心に大変な注目をいただきました。

今後も携帯情報端末などで使用される回路基板もますます小型化されることが予想されます。また、新素材も多様化し、その加工ニーズもますます高くなってくると思われます。このような環境を的確に捉え、お客様の問題解決を提案していくことにより、本製品は大きな期待ができると考えております。

中間貸借対照表

(単位:百万円)

決算期	48期中間 平成12年 9月30日	47期中間 平成11年 9月30日	47期 平成12年 3月31日
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	7,871	8,558	8,142
受取手形	836	306	416
売掛金	5,906	4,747	7,354
棚卸資産	1,529	1,196	1,061
その他	415	258	437
貸倒引当金	26	24	38
流動資産合計	16,532	15,042	17,372
固定資産			
有形固定資産			
建物	1,863	1,946	1,878
機械及び装置	1,150	1,277	1,156
土地	4,505	4,505	4,505
その他	543	509	509
有形固定資産合計	8,061	8,239	8,050
無形固定資産	263	330	290
投資その他の資産			
投資有価証券	3,490	3,361	3,342
その他	576	213	628
貸倒引当金	159	186	158
投資その他の資産合計	3,906	3,387	3,812
固定資産合計	12,231	11,957	12,153
資産合計	28,764	27,000	29,525

決算期	48期中間 平成12年 9月30日	47期中間 平成11年 9月30日	47期 平成12年 3月31日
負債の部			
流動負債			
支払手形	2,362	2,046	2,814
買掛金	1,048	826	1,363
一年内返済予定長期借入金	170	170	170
未払法人税等	289	232	389
未払消費税等	29	45	79
賞与引当金	347	334	322
その他	604	412	466
流動負債合計	4,852	4,067	5,606
固定負債			
長期借入金	235	405	320
退職給与引当金	-	1,127	1,136
退職給付引当金	1,088	-	-
役員退職慰労引当金	70	158	165
固定負債合計	1,394	1,692	1,621
負債合計	6,246	5,760	7,228
資本の部			
資本金	2,015	2,015	2,015
資本準備金	2,157	2,157	2,157
利益準備金	503	503	503
その他の剰余金			
任意積立金	16,559	15,800	15,800
中間当期末処分利益	1,196	763	1,820
その他の剰余金合計	17,755	16,563	17,620
その他有価証券評価差額金	85	-	-
資本合計	22,517	21,240	22,297
負債・資本合計	28,764	27,000	29,525

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 9,916百万円
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

(単位:百万円)

決算期	48期中間		47期中間		47期	
	平成12年4月1日 ～平成12年9月30日		平成11年4月1日 ～平成11年9月30日		平成11年4月1日 ～平成12年3月31日	
売上高	8,792		7,740		17,753	
売上原価	6,854		6,285		14,189	
売上総利益	1,938		1,455		3,564	
販売費及び一般管理費	1,040		938		2,041	
営業利益	897		516		1,522	
営業外収益	36		45		86	
営業外費用	8		75		167	
経常利益	926		485		1,441	
特別利益	60		15		29	
特別損失	264		9		55	
税引前中間(当期)純利益	722		491		1,415	
法人税、住民税及び事業税	294		246		640	
法人税等調整額	20		-		37	
中間(当期)純利益	407		245		812	
前期繰越利益	548		517		517	
過年度税効果調整額	-		-		490	
退職手当積立金取崩額	240		-		-	
中間(当期)未処分利益	1,196		763		1,820	

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示してあります。

品目別売上高

(単位:百万円)

決算期	48期中間		47期中間		47期	
	平成12年4月1日 ～平成12年9月30日		平成11年4月1日 ～平成11年9月30日		平成11年4月1日 ～平成12年3月31日	
品目	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
オフィス家具	4,376	49.8%	4,218	54.5%	10,734	60.5%
ばね	877	10.0%	982	12.7%	1,954	11.0%
エクステリア	1,197	13.6%	1,162	15.0%	2,353	13.3%
エレクトロニクス関連	2,157	24.5%	1,235	16.0%	2,448	13.8%
健康福祉	183	2.1%	141	1.8%	262	1.5%
合計	8,792	100.0%	7,740	100.0%	17,753	100.0%

株主優待制度のご案内

平成12年度の株主優待は、1,000株以上所有の皆様へは下記A～Eの5点の商品の中から1点お選びいただき贈呈し、100株以上1,000株未満所有の皆様へは当社にて育成・栽培されたハーブの香りが楽しめる当社オリジナルの「ハーブ・ボディークリーム詰め合わせ」を贈呈いたしました。今後の優待品も皆様におよごびいただけるよう厳選の品をお送りする予定でありますので、ご期待ください。



タカノでは、株主の皆様に対しましての利益還元の一環として、毎年「株主優待」を実施しております。

毎年9月30日現在1,000株以上ご所有の株主の皆様へ、長野県にちなんだ特産品を、また、100株以上、1,000株未満の皆様へ当社オリジナルの品を送付しております。なお、「りんご」など季節の品物をお送りする関係上、11月に優待申込書をご送付し、お申し込みを頂き、12月初旬に品物をご送付という日程で、優待を実施しております。

ホームページのご紹介

もっとタカノを知っていただくために

タカノでは、株主・投資家の皆様へのタイムリーな情報提供・双方向の情報交換を目的に、ホームページに会社情報を掲載しております。是非ご覧ください。



<http://www.takano-net.co.jp>

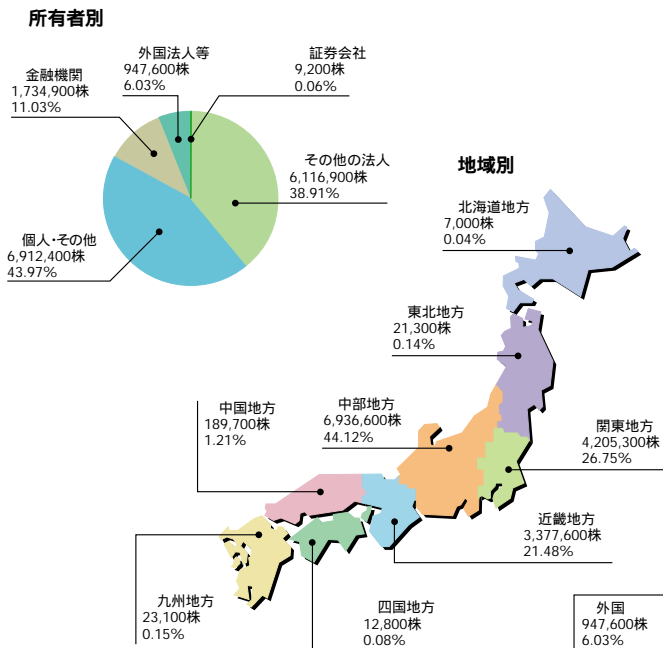
株主の総数

会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式の総数	15,721,000株
株主数	1,558名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況 持株数(持株比率)
コクヨ株式会社	3,151,500株(20.04%)
日本発条株式会社	2,151,500 (13.68)
鷹野 準	1,859,980 (11.83)
堀井 朝運	1,315,650 (8.36)
第一勧業富士信託銀行株式会社	1,000,000 (6.36)
タカノ従業員持株会	565,700 (3.59)
鷹野 力	403,120 (2.56)
ザ チェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン	359,000 (2.28)
堀井 良子	343,650 (2.18)
鷹野 ミナ	311,190 (1.97)

株式の分布状況



株価の推移





タカノ株式会社

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137
TEL. 0265-85-3150(代)

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会については毎年3月31日 利益配当金については毎年3月31日 中間配当金については毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ 公告いたします。
名義書換代理人	東洋信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1-4-3
同事務取扱所	東洋信託銀行株式会社 証券代行部 東京都江東区東砂7-10-11 (〒137-8081) TEL. 03-5683-5111
同取次所	東洋信託銀行株式会社 全国各支店
1単位の株式数	100株
公告掲載新聞名	日本経済新聞

インターネット情報

URL▶<http://www.takano-net.co.jp>

地球環境に配慮する企業方針の一環として、この「事業報告書」は、
エコマーク認定の再生紙を使用しています。

会社概要

商号	タカノ株式会社
本社所在地	長野県上伊那郡宮田村137
創業	昭和16年7月1日
設立	昭和28年7月18日
資本金	20億1,590万円
事業内容	事務用椅子、その他椅子等のオフィス家具、ばね、 エクステリア製品、エレクトロニクス関連製品、 健康福祉機器の製造ならびに販売
上場取引所	東京証券取引所市場第二部

役員

代表取締役社長	鷹野 準
常務取締役	鷹野 力
常務取締役	伊井島 幸夫
常務取締役	野溝 郁文
取締役	小田切 章
取締役	大住 之盈
取締役	黒田 章裕
取締役	前田 次啓
常勤監査役	菅沼 孝彦
監査役	黒田 錦吾
監査役	河村 公二

事業所

本社	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137 TEL. 0265-85-3150(代)
宮田工場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137 TEL. 0265-85-3150(代)
伊那工場	〒399-4431 長野県伊那市西春近下河原5331 TEL. 0265-72-3147(代)
下島工場	〒399-4431 長野県伊那市西春近平3587-1 TEL. 0265-73-2088(代)
エクステリア工場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村2053-7 TEL. 0265-85-4848(代)
馬住工場	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂14-353 TEL. 0265-81-1575(代)
横浜工場	〒224-0057 神奈川県横浜市都筑区川和町639 TEL. 045-931-4424(代)
特品工場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村5450-205 TEL. 0265-85-3727(代)
東京営業所	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-13-1 タカノビル TEL. 03-3253-8261(代)
函館事業所	〒042-0958 北海道函館市鈴蘭丘町3-88 TEL. 0138-31-9313(代)
グループ会社	株式会社ニッコー タカノ機械株式会社